

『野殿の森』でインターン体験は、いかが！

環境カウンセラーズ京都



森の受付風景

東海自然歩道より森の登口に入り、80m 先が受付。さらに進むと、“風と苔の谷”の水源・第一水脈に出る。休憩所と黄色い子どもステージのある谷筋となる。

■ 地下 3.5m の岩盤から井戸水を掘り上げ、バケツで組み上げる。飲料水を確保。

■ 谷筋から梯子段を登り、ショートカットで巾林道となる尾根道に出ると、小丸太づくりのバイオトイレである。グリーンドアが、目印となる。電気を引いた。

足掛け 4 年かけて、人が活動できる森の基本整備ができた。これから里山再生と山資源の循環活用を目指す。

道づくりは、作業道と森の散策路を兼ねて、巾 3m で地形や利便性に応じた形状設計で総距離 1.4km を尾根道と中腹域につけ、総距離 1.4km となる。

土、風、水と陽光が射し、森をすっぽり包むヒノキの香りが今、身体ごと感じられる！！これで、70 余年の眠りから森は覚めただろうか。。。一方で森の整備を進めて、通風/日照と汚れない森からの水利が隣接する水田にもつながって、よかったとの思っている。

地元から学ぶ里山の歴史と現実

■ 里山が生きた姿の森は今、地元には残っていない。*

密集した針葉樹林の育成間伐により、東よりの陽光がいっぱい指す。



* 美しい田園風景と手入れの届かない林地が周辺を包むが、人と共に育った里山は見当たらず、林業/炭焼き等を生業とする人もまれとなった。村の猟師たちからの話は、地元林地の今を知る貴重な機会でもある。

次ページからは、本題のインターン体験の推奨提案です。

獣道 No/2 笹が林床を覆っていた。。



獣道 No/1 の南斜面（法面）

荒廃した林地を手入れする目的には景観・山野草/雑木林の復活・レクリエーション等様々な要素があり。今般、インターン体験となる整備の目標は明るい空間づくりによる林床植物と生物多様性を取り戻す試みである。

■ 場所の選択

獣道 No.2～南面斜面

獣道 No.1～南面斜面

■ 作業と時間 昼食後 2 時間程度

二ヶ月に一回、観察と記録（育成・植栽・伐採・笹狩り・落ち葉かき等体験学習）＊尚、北側斜面には、今季葡萄の苗を植栽する予定あり。



風と苔の谷

森づくり・里山再生のインターン体験 1。

ササ刈りと下草育成/生物多様性向上のための緑の目・明るい空間づくり

ササを刈り取った後の獣道

